

「玉糸機（たまいとばた）」と熟練の手技で、日本の織物の原点を大切に。

ここ数年来のヨーロッパ向け洋装生地開発のノウハウを活かし、従来の高機の特長を効率的に受け継いだ独自の力織機＝「玉糸機（たまいとばた）」の導入を順次すすめてきました。



手機は織り手による打ち込み強さのばらつきや、打ち込みタイミングのずれが生じやすく、品質の安定を保つ上で常に悩みの種でした。このため牛首紬では、引き杼を使用した手機に近い構造でなおかつ打ち込みが安定する「玉糸機」を考案し導入。職人がそれぞれ一台を受け持ち、丁寧に織り上げます。それでも緯糸は織度むらが多く、これらの糸を取り除く熟練の目と手技が牛首紬の品質を決定します。